

真和

年間テーマ

えいまかん けん ぜん けん しき

・ 健康全見識

物事の本質を見通す判断力を培い
健全経済を追求する

● 宮城支部 みんなの实践

至福の一枚

「無農薬ササニシキ栽培」(株)田伝むし

コースター作りは環境改善の始まり

「河北展最高齢入賞」石川喜美

● 幹事長 新年の挨拶

● はじめの一步

● お知らせ・勉強会案内・編集後記

新年あけましておめでと〜うございませす

この原稿を書いているのは、2022年12月5日です。先週金曜日、厚生労働省が発表した新型コロナウイルスの新たな感染者数は全国で10万人超でしたが、週末の東京駅は人人人でごった返していました。地域によって多少の温度差はあるようですが、ウィルスを超えるのではなく、ウィルスと共存する時代になっていきます。「コロナだから」何ができないというものは、もう単なる言い訳に過ぎません。

とか偉そうなことを言いながら、昨年のご挨拶で「まもなくスタートします」と豪語した生体システム実践研究会のオフィシャルウェブサイトのスタートは11月にずれ込んでしまいました。申し訳ございません。いろいろな方々にご協力いただき、まだ完璧ではありませんが十分に使えるものができたと感じています。ぜひアクセスしてみてください。検索上位に出てくるように何度もアクセスしてみてください。あなたのまわりの方々に紹介してください。これまで名刺交換した方々にお知らせしてく

ださい。ウェブサイトのアドレスやQRコードをあなたの名刺に印刷してください。あなたのウェブサイトからリンクしてください。もっとこうしたいほうがいい、ああしたほうがいいというご意見をどんどん教えてください。よろしく願います。

コロナだから不景気だからと後ろ向きになるのではなく、この混沌の時代をビジネスチャンスだと感じ、前を向いて積極的に動いている人たちはいっぱいいます。そういう人たちほど、我々の話にも耳を傾けてくれると感じることが最近とても多いです。先が見えない時代だからこそ、未来からも求められる我々の技術の出番であるはずです。石見大田工業の竹田さんがリラックスウォールを出展したインテックス大阪の展示会でも、水に産産を託す会と出展した横浜港の東京湾大感謝祭でもそれを感じました。

生体エネルギーの理論を学ぶことももちろん大切です。でも、たぶんそれ以上に、

今の我々にとって必要なのは、世の中を学ぶことじゃないかと、私は感じています。こんなに良い物がいっぱいあるのにそれが世の中に伝わっていないのは、我々の生体エネルギー準拠位置が足りないからではなく、伝えるための工夫と努力が足りないせいではないかと。

伝えるときに必要なのは、伝える相手がわかるように喋ること。それには、まず相手のことを理解する必要があります。相手の言うことを良く聞き、世の中のことを学ぶところからすべてはスタートします。

みんなで学びましょう。世の中で当たり前のように「生体エネルギー」が語られる未来を見据えて、今年も一緒にワクワクしましょう。

幹事長 栗田康弘



中島さんの巨峰にうっとりする、山下嘉子さんの甥っ子の千太郎くん 2歳。この企画が宮城支部から生まれることになった一枚です。ぶどうよりもこの子にかぶりつきたくなるくらい可愛いですね(^^) 今回の写真の子どもたちが健やかに大きくなり、そしてじじいへの道を歩んでくれることを願っています。

金賞

宮城支部新年企画
プログラム農法の農作物が呼び込んだ
至福の一枚



銀賞

三枝さんのシャインマスカットを頬張ってうっとり。望月聡臣さんの双子のお子さんたち。健暉(たつきくん(上))と、いおりちゃん(下)

子どものときに美味しいものを食べたときのほっぺたが落ちる感覚。顔中で食べているような恍惚の瞬間は見るだけで幸せになります。新年を豊かな気持ちで過ごして頂けるよう、みなさんから寄せられた「至福の一枚」をお届けします。

おいしいで賞



パパたちのつくった(長野支部)ポップコーンでキャラメルポップコーンつくったよ、どうぞ♪ 新田篤史くん



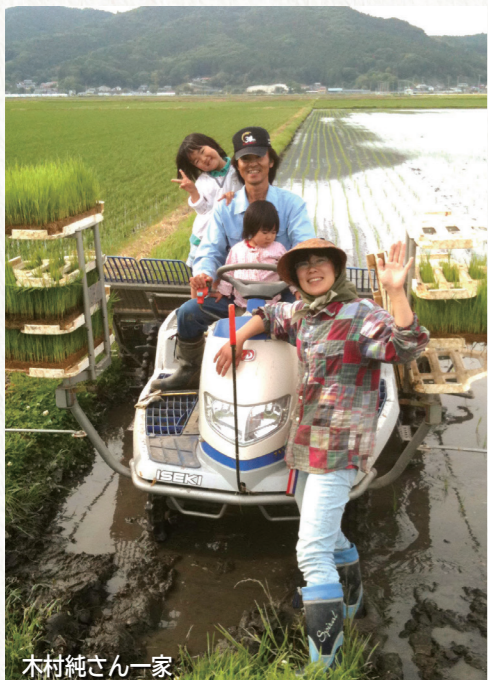
お庭で収穫したじゃがいも自分で揚げたよ! 新山晴士くん



中野孝治さんのお孫さん 中野善くん。1歳10ヶ月。中野さんは現在9人のお孫さんがいて、善くんが一番下だそう。



中島さんのぶどうはとまらない・・・中澤由幸さん、十四三さんのお孫さん 木花ちゃん。



木村純さん一家

宮城 田伝むしの実践



ササニシキの物語を 世界に広めたい!!

・え〜? 農業の書を無書にする? 私達の田んぼは農村地域の住宅地と田園風景の狭間で生活しております。どんなに自分の田んぼを無農薬栽培で手掛けても隣接する方々の田畑には、農薬・除草剤が使われ農薬散布も風で流されてくるので、敏感な妻は年中鼻炎で皮膚も弱いのですが農家の嫁だと諦めています。ミツバチが激減した主要原因と言われるネオニコチノイド系農薬という農薬をご存知でしょうか? 農家以外の方は耳慣れない単語かもしれませんが、田んぼがある地域では8月初旬から中旬にかけて農業用ヘリコプターでカメムシ防除を目的に散布されます。1992年に登録され、1993年から全国で使用開始されました。子供の頃、田んぼにはザリガニ・どじょう・タニシ・とんぼ・カエルなど虫がたくさんいましたが、近年は田んぼで見かけなくなりましたとよく言われます。僕たちの田んぼには農薬を使わないためか?

・両親から引き継いだ有機農業 代々続く米農家で僕で7代目と聞いております。小さい頃、父親はお米作りと牛を飼い、その傍ら近所の板金屋さんでも働き、馬車馬のように働いていました。昭和62年から両親が農薬を使わない栽培を開始、僕は平成5年就農し無農薬栽培を引き継ぎ、今年で36年目になります。有機JAS認証、IFOAM認証取得。

・自己紹介 宮城県石巻市で有機ササニシキ・有機みやこがねもちの生産をしております(株)田伝むしの木村純と申します。実践研究会の会員になったのは2008年で今年で15年目になります。これまではどちらかというとマルセイ商品を受用する消費者的な感じでしたが、昨年から本部での勉強会に参加するようになり、生体エネルギーの理解と実践がレベルアップしました。

リガニがたくさんいて、それを食べにウミネコやサギが大量にやってきます。海からは15キロも離れているのですが、わざわざやって来るのです。海にエサがないのかな? と心配になるほどです。ザリガニのエサとなる微生物・生き物が生息しているからで、マンダラのような生態系が私達の田んぼにはあるのです。 昨年、TBSの報道特集がネオニコ系農薬の生態系への影響を取り上げていました。シジミの産地で知られる島根県宍道湖で1993年を境にワカサギ・ウナギが急にこれなくなり、廃業した漁師さんもいたそうです。東大の山室真澄教授がアメリカの科学誌サイエンスに発表した論文によるとネオニコが原因であると指摘しております。ネオニコはニコチン似の新しい殺虫剤で、虫の神経を麻痺させ殺すが人体への安全性は高いとされ、農家にとっては「葉っぱに残留するからこれまでの農薬よりも効く」農薬散布回数が減るというメリットがあります。当初、魚に影響を与えないとされてきたが、宍道湖の動物プランクトンが激減し、とんぼも1993年からピタッといなくなったそうです。2010年頃、ミツバチの大量失踪が問題になり、ニュースでも取り上げられました。金沢大学の山田敏郎名誉教授は実験で低濃度ネオニコでもハチが巣に帰れなくなるという実験結果を発表しました。人間の子供への自閉症・発達障害の有病率と単位面積当たりの農薬使用量に相関関係があると、環境脳神経科学情報センターの木村博士が論文を発表し、EUのネオニコ規制に影響を与え、日本で認可されている7種類のネオニコのうち5種類を使用禁止や承認取り消しなど規制を厳しくしました。EUでは「疑わしきは規制や禁止を」という予防原則の考え方がありますが、日本の農水省は使用方法を間違わなければ問題ないというスタンスで何が問題が起きてから国が動き出すという従来と同じパターンです。かと言って、無農薬栽培を全ての生産者が出来るわけではなく、その害を判ってはいるけれど、経営・生活のために使っている。という方もほとんどだと思います。しかし生体エネルギー資材を使えば、農薬の害を消せるというのは皆さんご存じだと思います。ただし、生体エネルギーを理解し、活用している農家さんは日本の農家の何パーセントいるでしょうか? 僕はこれまで無農薬



宮城支部 みんなの実践

あけましておめでとごいやすます

宮城支部での実践につきましてお話をさせていただきます。

宮城支部では、じんちづくりが全ての基本と考えており「継続」をテーマに、八倉づくりを二回と八倉能力加算液づくりを三回の計五年間継続して参りました。

継続にこだわるには訳がありまして、私が努力すれど努力すれど、日本昔ばなしになりそうなくらい、何故か下りのエスカレーターに乗っているかのごとくにエネルギーの流れを感じておりまして。

私の住宅のお話をする以前に敷地の入口の方角が悪い事を佐藤先生から教えて頂きました。

その流れを止める事は出来ないけれど緩やかにする方法として八倉の設置を指導して頂いて頂きました。

八倉は住宅の中心から南西方向(裏鬼門)の敷地の隅に地元の石(伊達冠石)、一個が1.2tを十個、計約12tを設置しました。

なぜこんなに重い石が必要なのかと言いますと、私の所のエネルギーの流れを緩やかにするために石の重さ(力)を利用していきます。

設置後、岩森力をかけた時、伊達冠石に命が吹き込まれたようで霧が晴れたような清々しい空気に変ったのを感じました。

佐藤先生からは「応急措置だからいつまでも抑えることは出来ないから住宅を移動するか入口を変えるしか無いよ」と言われた事を現在でも忘れていません。

例えば私の所とは逆で「上りのエスカレーターのようなエネルギーが流れている所に乗っかって今の努力をしたらどうだと思っ?」と聞かれました。(倉が建つわ)

八倉を設置しての実践から分かったこと。

*自然界の法則にのっとって建てられた住宅、敷地では感じ方も知れません。

私の所のような事例では、エネルギーの流れを緩やかにする仕事をしているため八倉が持つ準拠位置エネルギーが凄く消耗します。(仕事量やお金の流れとも直結するようです)

農業という連作障害が起こりそうになります。

事情があって住宅を移動できないのであれば、どうすればエネルギーの流れが緩やかな状態を継続できるのだろうか?

・準拠位置の高い能力液で加算する。

・加算液の量を多く使用する。

・八倉の周りに南西から右回りで底力を撒く。

・独自の周期説を用いて散布することにより、準拠位置エネルギーが下がり切らずに継続できる。

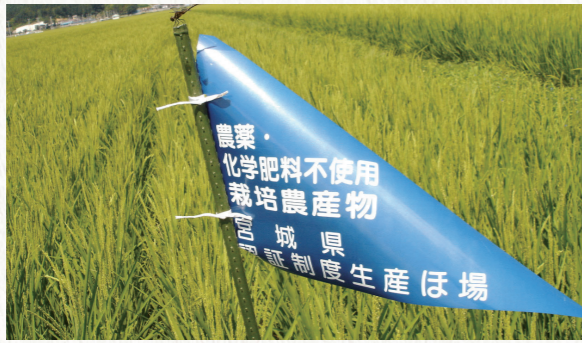
などを実践しながら進んでおりますので、みなさまも八倉を設置して終わりでは無く、「継続」してじんちの準拠位置エネルギーを高めて頂けたらと思います。

本年も宮城支部を宜しくお願い申し上げます。

支部長 佐藤勉



展示会への出展風景



田んぼにいたウナギ



大量のおたまじゃくしたち



ザリガニもこんなに沢山



田んぼにやってくるウミネコ



ザリガニもこんなに沢山

栽培・自然農法を行ってききましたが、生体エネルギーに出会い、佐藤先生から学び、そういう問題も変えていけるということが分かりました。まずは僕達のオーガニック生産者仲間へ伝え、健康につながる農産物を作りたいという意識のある生産者から少しずつにはなると思いますが、生産者のネットワークを広げていければと思います。

TBS 報道特集

「ネオニ」系農薬 人への影響を

<https://www.youtube.com/watch?v=0JIT-MO3f5U>



販売先の開拓

2005年、就農当時にお米を「誰に」「どうやって」「どういうお米を」売っていいかを考えました。前職で水産メーカーの営業職をしており、その時の経験から大手を相手にしたら「いよいよに利用される」ということを経験していましたので、個人のお客さんにECを活用して販売していいかと決めました。ECと言っても始めてすぐ売れるものではなく、日中農作業して、夜パソコンでの作業中に居眠りして妻に起こされるという日々を過ごしながら少しずつ個人客が増えていきました。私達が栽培していたのはササニシキという品種でコシヒカリが競合になるかな？と予測してましたが、見当違いで、ササニシキには独自の客層があることに気づきました。ホームページを見て「使っている肥料は何ですか？」「農薬は何年前から使わない栽培を始めたか？」などの電話が来るようになり、何らかのアレルギーをもつ子供の母親からの相談でした。食べられるものが限られ、安全性の高い農作物を探しているという切実な相談もあり、食べるものを作り提供するとは身が引き締まるというか、自分達の役割のようなものを感じさせられました。

震災時の風評被害

減危慎種です。東京のスーパーではササニシキの扱いはほとんどなく、自然食品店では探せば見つかるかもしれませんが。コシヒカリは粘りと甘味という特徴に対して、ササニシキは粘り・甘味が少なく、炊きあがりの風味が特徴とインパクトに欠けコンテストでは評価されないお米です。しかし、毎日食べるお米としては最適でモチの成分であるアミロペクチンがなく、消化器官にやさしく、高齢者から支持されております。また寿司職人からの支持は熱烈で、全国の名だたる寿司職人が探すほどです。昨年10月、京丹後で開催された「世界シャリサミット」に参加し、ロンドンの親方からオファーをいただきました。ササニシキは一歩下がり、寿司のネタを引き立て、黒子に徹するお米です。コシヒカリは個性が強く出しゃばってしまつので寿司には適さない、得意先のミシユラン一つ星の親方が仰ってました。

心境と行動の変化

本部での勉強会に参加し、佐藤先生のお話を聞いている中で少しずつですが理解できる箇所が増え、佐藤先生が望む事が少し解かるようになってきました。「生体エネルギーを産業に活用して幸せになる人が増えて欲しい」と佐藤先生は望んでいるのではないかと感じ、それを行動に移していこう！と思いました。今、つながりのある食に関わる事業者積極的に生体エネルギーの話をしているところです。餃子メーカー、製粉所、畜産農家、酒蔵、フルワリー、餅屋さん、水産加工業者などにアピール、関心を示す方は半分程度ですが、準拠位置の高い食品を作る事業者が増えれば健康になる人も増え経営も良くなる、ハッピーになる人が増えればいいなと思います。石巻の複合体験施設モリウミアスでは海での漁師体験、魚を捌く調理、豚鶏の世話、新割り、田んぼでの農体験を子供達に実際に体験させるというとても面白い取り組みを行っている施設です。子供達だけでなく、都会での忙しい日々には疲れた大人からも支持され、企業研修や海外からのインターン生も来る国際色豊かな場でもあります。モリウミアスで提供されるお米に私達のサ

2011年大震災での風評被害によって、それまでコツコツ増やしてきたお客様が半減するという事態に見舞われました。失った顧客はすぐには戻らないと考え、東京での展示会出展に活路を見出し、積極的に参加しました。

小売店、卸、通販業者など、少しずつ販路を開拓し、売上を回復していきました。2018年にはパリの日本食小売店とも取引が始まり、今ではフランス・スイスの2か国へ輸出しております。今後はジエトロの輸出商談会にも積極的に参加する予定で、2023年2月にはドイツで開催される世界最大のオーガニックの展示会「bioFach」に出展します。オーガニックの展示会ですが、生体エネルギーを売り込んできたと思います！それから、減反は廃止になったと政府は言っていますが、現実には各県ごとに減反目標があり、その数字が地域にも下りて来て、現在、約50%の減反の割り当てがあります。ただし、主食用米の需給に影響のない、みそ、みりんなどに使われる加工用米、酒米、輸出用米、米粉用米、家畜のエサとなる飼料米の作付けは減反としてカウントされます。私どもはオーガニックのみメーカー、オーガニック酒蔵と契約、少量ですが輸出用米と何とか減反目標も達成しております。生産50%、販売50%と捉え、積極的に営業活動してきた成果が表れ、昨年から生産量に注文が追いつかず、お米が足りない状況です。既存の得意先と調整し、個人向けのEC販売分は確保しております。最近では、米アレルギーが出にくい品種とも言われていて、お医者様から薦められてササニシキを探していたというお声も聞くことが多くなりました。

ササニシキの物語

「東の横綱ササニシキ」「西の横綱「コシヒカリ」と言われ、日本を代表する品種でしたが、平成5年の大冷害で被害が一番大きかったのがササニシキでした。多収型のササニシキですが、低温に弱いということが現実となり、近年は高温にも弱いということが判明し、生産者が激減、国内10%以上あった作付面積が今は0.1%と言われております。準絶ササニシキを使ってもらい、田植え・草取り・稲刈りと体験も受け入れております。はじめは田んぼに恐る恐る裸足が入って、田植えをしますが、子供達は途中からザリガニやカエルなどの虫取りに夢中になり、帰る時間になっても田んぼから上がらず「帰りたいくない」「来年もまた来る」と言う子供を見ると、とても嬉しいほっこりとした気持ちになります。自分達が幼少の頃そうだったように子供はやっぱり、こつこつ遊びをしたんだと改めて感じさせられます。足の指先に又ル又ルした土が触れた時から人間の本能が刺激され、様々なセンサーが働き出す瞬間です。裸足で又ル又ルした田んぼの感触をたくさんの方に味わってほしいと思います。そのモリウミアス代表の油井さんが、これから展開する醸造用ぶどう栽培、ワイナリー建築に生体エネルギーを活用したいという意向を持っています。

新潟の中野孝治やとの出会い

本部勉強会に参加するために常盤館に宿泊した際に新潟の中野さんと出会い、初対面にも関わらず、様々なアドバイスを頂きました。もっと中野さんの話を聞いてみたいと思いい、新潟の中野さんの事務所まで伺い、夜暗くなるまで、僕の質問攻めに付き合ってもらい、中野さんの魅力に引き込まれました。生態系生体システムプログラム農法に取り組む生産者の話を直接聞きたいと何年も前から思っていました。そのチャンスが突然目の前に現れ、実現したので。妻の千寿子、長女の明夢(あみ)も新潟まで連れていき、稲作だけでなく様々な相談にも乗ってもらっています。

鼓動PROをコンバインに取り付けたり、体の振動がとれずひと月ほど疲れが取れなかったのが、疲れが残らずコンバインに乗るのがワクワクするようになったことは、農業を始めて17年、これまでの価値観がひっくり返るほどの経験でした。



蘇鮮蔵



蘇鮮蔵の電気は「さとりビクマ」



コンバインに取付けられた鼓動PRO

生態系生体システムプログラム農法 基礎講座への参加

佐藤先生が紐解いた自然の摂理を学ぶことで、生体エネルギーへの理解が加速しました。土や微生物や植物についての学びが足りていない事にも気づかされ、もっともっと勉強する必要性を感じることができました。

畑の土に野菜残渣をすき込むと、早く分解されるもの、分解に時間がかかるものがある、人間の腸と土の中が相似形なのではないか？と考えたことがありました。腸も土の中もそれぞれの環境のエネルギーを高めることで、様々な問題解決につながる事も分かりました。地球上の人間と米粒も相似ではないか？と考える時もあります。一粒で世界を変える米一人から世界を変える、不可能が可能になる。お米作りから世界を変えられたら、こんな幸せなことはありません。自分の天命であるお米作りを今年は更にバージョンアップしたいと思います。

宮城支部で作った八倉能力加算液をお盆過ぎに田んぼに投入しました。本来、八倉の能力に加算するのが目的で作ったのですが、リバイバルX、真和X、AEC、底力、岩森力、真和H、真和Eで仕込んだものですので、田んぼにも能力の加算を期待してのワクワクしながらの投入でした。今年は稲の花が咲く時期(出穂以降)日照量が少なく、稲にとってとても大切な時期にこの気候はまずいなど心配でしたが、能力加算液による効果もあり、過去最高の収穫量となりました。収穫量が多いということは収穫も多くなり、土壌分析を踏まえ、来年の作付けまでの施肥設計がとても重要になります。

2023年の目標

一粒で一升の米を全粒、優性遺伝子支配にするお米作りチャンネル

自主勉強会「マイコースター作り」 コースター作りは環境改善の始まり

宮城支部 吉中宏実 (No.762)



昨年、本部の勉強会が無くなった頃でも、長野支部の勉強会は地道に続いていました。そのことを知ったのはしばらく経っての事だったので、アンテナは高く張らないといけないと痛感しました。その中の「マイコースター」を実践されたのは静岡県支部で、昨年真和にも紹介されていました。では、今年こそ宮城支部でも…と支部の年間計画にも取り上げ、張り切っていたのですが、実は担当がその時期にコロナを貰ってしまったので、流れてしまいました。やっと世の中のにもコロナが落ち着き始めた十月、自主勉強会として「マイコースター作り」を開催する運びになりましたが、十月は行事やイベントが結構目白押しで、やっとおさえたい会場でも参加は少数…中止も止む無しと思っていました。「少数精鋭でも地道に勉強会を続けましょう…」と支部長も事務長もゴーを出し、晴れて念願の自主勉強会「マイコースター作り」を十月二十九日(土)、日立システムホール仙台アトリエにおいて、参加者六名で和気藹々と開催することが出来ました。(試作会には四名参加での八十名の参加)

実は、この十センチの丸いコースターの意味することはコップの環境改善と考えます。コップに入った飲み物はコースターという環境で変化します。そのことが判れば、その応用は無敵大ということが想像できます。

大袈裟にいえは、今回のコースター作りは最高の環境の家作りに繋がっています。その最高の環境作りの基礎を、一人では出来ないことを仲間と一緒にやっていくということこそ、「じしみの概念」の実践に繋がっているといつていいと思われれます。

「はじめちゃん」のおまけの話
初めの試作は対照区のコースター。説明書通りに準備したセメントを水道水で練り上げ、そのままコースターに詰め、「コテで表面が平らになる様にシンプルに仕上げました。」

2022年のササニシキの情報

血流が良くなる
腸が快調になる
疲れが取れやすくなる
良質な睡眠がとれる

2023年のササニシキの情報

右記にプラスして
肝臓・腎臓の機能が回復する
という情報を加算します。

今後の目標

行者ニシキで糖尿病を治す！
昨年、15aの畑に移植した行者ニシキがあります。5年後の収穫まで、糖尿に効果ある商品化を計画しております。宮城で生体エネルギーを取り入れる仲間を増やす
農業スクールを展開し、人材育成
「田伝むし」を個々の能力を発揮できる場(じんち)にする

株田伝むし 問い合わせ先

TEL: 0225 (72) 24800
FAX: 050 (3488) 8659
E-mail: info@denden999.com
営業時間 9時~17時
定休日 土、日、祝日
<https://www.denden999.com/>



次に、コースターにコンクリート用Xの力丸を使って同じ様に練り上げ、半分詰めて、選んだ言葉を入れて、残りのセメントを詰め、表面にオリシナルの図案にタイルを並べました。これは始めれば夢中になっていきます。もっと良くしたいとあれこれ考える姿が楽しそうでした。こんなに一生懸命に作ったら、コースターだって本望…と思えました。

では、本望と思えるコースターの出来上がりには違いが出たのは、養生したタイルの量、個数の関係があるのかも知れません。それはこれからの課題になるかな…と思います。

後になって、対照区のシンプルコースターは、その後ほとんど出来てくるオリシナルコースター達を眺めて、寂しそうに感じてしまいました。実験をしても、シンプルコースターに乗せた時の顔とそれぞれのコースターに乗せた時の物を食べた時の反応が毎回違うのです。その様子をシンプルコースターに見られている様な感じを受け止めてから、

「はじめちゃんがないと違いが判らないね。はじめちゃん、大事だね…」
その時から、シンプルコースターを「はじめちゃん」と名前をつけて呼ぶことにしました。

勉強会の中で、佐藤政二先生が「すべての先祖に、地球の先祖に、感謝、ありがとです。道端の石ころにもです…」と仰って、本当に今まで感謝が足りなかった…と思っただけなのですが、今回、マイコースター作りの一番手のはじめちゃんは誰のマイコースターでもなく、でも、実験では対照区として大事なお仕事を宮城支部のマイコースターなのです。寂しい思いをさせているとしたら、それは宮城支部の感謝が足りないことなのかも知れません。しっかり自分の役割を果たしてきているはじめちゃんにも感謝を。

No.286

はじめての一步

リレー投稿 Since 1999



いくち やすこ
井口 康子

(静岡県支部 会員番号 4947)

はじめまして、私は静岡県支部の井口康子と申します。

出会いは、従妹の家で感じた心地良さでした。

その頃は心と体の不調を抱えていました。携帯用しらすべを持ち生体エネルギーミストに入りながら会話する。それだけでなぜだか心穏やかに安心できたことを覚えています。早速しらすべを購入して常に身につけるようにしました。その後、植松先生を紹介して頂き、治療院にいるだけでなんとも言えない心地良さを感じ、従妹に「二つの場所は似ている、共通の何かがあるの?」と聞いていました。

「仕掛けはある。」

そこから支部勉強会、秋期特別セミナー、本部勉強会へと導かれ、「不可能を可能にする、毒さえも薬にしてしまう理論と実践、技術がある。」と難しい言葉を使い熱く語る佐藤先生とそれに負けないくらいの真剣さで学ぶ受講生がいました。私は本部に行くと体調がよくなる(痛くない、動ける)。けれど自宅が近づくにつれ重くなるこの体に確信して、ここには確かに何かがある。私もまなびたい、それが知りたいの思いがあふれて入会を決めました。

そして、現在。

本部に行き、勉強会に参加する。想像量子宇宙論基礎課程を学び(実は参加するのみで全く自宅での実践や学びが出来ていなかった)けれど、そのまま現在は応用課程に参加させ

て頂いている。結局のところ、本部に行ったり商品を購入したりしているけれども、中途半端な取り組みしか出来ない。(これは自己否定の考え)

そんな私に「はじめての一步」の原稿依頼がきた!

尻込みする私でしたが「ありのままの自分で良い」との言葉に勇気づけられ、これをきっかけにして此所からスタート出来たらOK! そのチャンスを買ったとチャレンジすることにしました。そして出会いから今日までの歩みを振り返る過程で、あらためて自分自身と向き合うことができ、多くの気持ちを得られました。

まず、入会時に熟考した目的(自分の生き方を見つけて、宇宙自然に貢献できる)を思い出し、私は何をしたらどうかと問う。様々に苦しみながらも一つずつやってきたことがある。関節リウマチを薬に頼らず自分で治す、と決めてできることを諦めずやり続ける。物語商品の水電気環境サプリメント、クリーム各種他いろいろ。みんな私を助けてくれました。今もケアは必要ですが、痛み無く暮らしています。全てに感謝です。じぶんを否定する必要は全く無いのです。困難は成長のチャンスでした。

そして、本部に行く元気になる、やろう!と思える。リセット、リフレッシュになる。新しい出会いや気付きがあったりする。言葉を交わしたことの無い人もみんな仲間だと思える。幸せです。



私を助けてくれた、水、電機、環境のみなさん
ありがとう!これからもよろしく!!

佐藤先生が勉強会で詩を詠まれた。生きることの勇氣と希望に満ちた決意の表明であった。その熱い思いがストレートに自分の胸に届く。私も同じ道を歩みたい。私にもできる。

やってゆこうという勇氣が湧く。さあ再びのスタートに立って 始めよう!

次は、大阪府の山本幸治さんにバトンタッチします。

編集部より

本誌は会員のひとりひとりが作り上げていく会報誌として、投稿された方の生の声を尊重しておりますが、実践や理論の専門的なことは生体エネルギー研究所に監修を依頼しております。内容により一部表現を変更させて頂く場合がございます。ご了承ください。



河北美術展 最高齢受賞 画家・石川喜美の実践



→河北新聞に掲載された記事
↑授賞式の風景



後遺症抱えながら創作

東北福祉大賞「無空無 えいまかん(正)」
石川 喜美さん(79)

目に見えない大きな力が降り注ぐ様子を表現しました。病気の後遺症を抱えながら創作し、受賞のうれしさは格別です。想像力をさらに磨いていきます。



(仙台市太白区・画家)

昨年に引き続き、今年も新年号の表紙に石川喜美さんの絵を使わせていただきました。(絵の企画と所有は(尙能源))

その石川さんが第83回河北美術展で東北福祉大学賞を受賞し、今回の受賞者の中で最高齢入賞(受賞時79歳)を果たしました。

石川さんは、病気で倒れる前は河北展で4度入賞しています。この頃は今の様な自由な色彩と表現ではなく、審査員にもわかりやすい表現のものでした。しかし今の鮮やかで自由奔放な画風にたどり着いてからというもの、受賞からは遠ざかってしまっています。それでも展覧会の受賞歴は自分の絵を売るためには必要なことと捉え、何度もチャレンジしてきました。それでもなかなか通らずに今年で最後!と決めていたタイミングでの受賞だけに、喜びもひとしおだったそうです。会員だけでなく、一般の方にも見て知って買ってほしいという想いが受賞に結びついたと言えます。

授賞式の石川さんの行動で印象的だったことがあります。表彰状を手渡されたあと、審査員と関係者に「ありがとうございます」と声に出しながら何度も頭を下げていました。形式的な礼をする受賞者はいても、声に出して心からの礼をしていたのは石川さんだけでした。絵には精神性が現れます。形だけの精神性では、人の心に届く表現をすることは出来ず、大病を乗り越えて、半身が不自由ながらも生きていく喜びを存分に享受し、全ての存在に感謝できるようにすることがなによりも大きな学びだったといえます。その精神性が授賞式のたった数秒の出来事に集約されていたと感じました。

受賞した絵は、2021年の年間テーマ「えいまかん」をテーマにしたものです。石川さんが毎年描かれている「えいまかん9年シリーズ」の2年目です。絵の前に立った瞬間、体が熱くなります。地を表現した鮮やかな赤色のエネルギーがそのまま響いてくるような、そんな力強い絵です。審査員の評に「個性的」というコメントがありました。逆

に言えば他の作品が「洋画」というジャンルに収まる絵なのに対して、石川さんの絵は洋画という枠を超えています。自己と宇宙自然との対話から導き出された個性が表現されているから、展覧作品の中でもその存在は際立っているのです。人類の常識を進化させ、じつじみのへの道をゆく私たちの精神は自由の中にあります。自分自身の物語(個性)を開花させるには、ひたすら「己の道をゆく」しかない。80歳にして、石川さんは新たな一步を踏み出し続けています。

「慈空」体験記

「慈空」が発売されたとき、自分用と息子さん用の2本を購入したそうです。息子さんに渡す前に自分で2本持つていつも行く郵便局までいったところ、いつもは3回は休んで30分かかると、一回も休まず23分で辿り着いて驚いたのだそう。さらに大きな飼犬が30センチの間隔にはまって動けなくなってしまうときに、犬の足に慈空を巻いてあげたり、しばらくしたら自分で抜け出してきました。

これに味をしめてもう一本買いたい、さらに買いたい。今では5本をもつようになったとのこと。こんな石川さんではありますが、最初は「私みたいな人間がこんな気持ちいいのだろうか?」と何本も持つことに抵抗があったそうです。そんなときに「自分だけのためだけでなく、絵や自分の営みを通して誰かにギブできるなら能力の欲はかいたほうが良い」というアドバイスを貰ったことで、加算する事ができたそうです。今回の表紙の絵も、「慈空」5本を持って描かれています。昨年と比べてもさらに力強さが増しているのを感じて頂けると幸いです。

(尙能源の中澤さんは、毎年石川さんに年賀状の絵を描いてもらっています。鼓動をつくっているスズヒロの鈴木さんも鼓動をテーマにした絵を喜美さんにお願ひしようと思っているそうです。絵の依頼は、下記お電話でご相談ください。石川喜美 090(6684)6872

お知らせコーナー

謹んで新年のご挨拶を申し上げます
皆様におかれましては健やかな年をお迎えのこととお慶び申し上げます
本年も良い年となりますように
生体システム実践研究会 本部事務局

令和5年度 本部勉強会予定

- 1月27(金)〜28日(土)
- 3月3(金)〜4日(土)
- 4月7(金)〜8日(土)
- 5月12(金)〜13日(土)
- 6月2(金)〜3日(土)
- 7月7(金)〜8日(土)
- 8月4(金)〜5日(土)
- 9月1(金)〜2日(土)
- 10月6(金)〜7日(土)
- 11月10(金)〜11日(土)
- 12月1(金)〜2日(土)

◎全方位OKの年が終わります

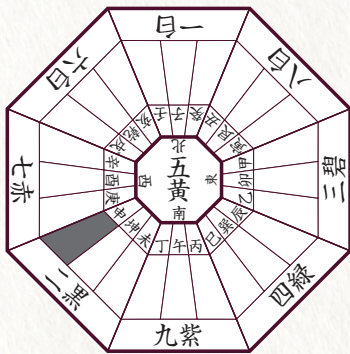
2023年の節分は2月3日(金)。翌4日(土)から年の方位が変わります。

歳破以外の全方位OKだった年も、あと1ヶ月を残すばかりになりました。やり残したことはありませんか？次に全方位OKになるのは9年後。その頃には社会はどんなところでしょうか。そして当会はどのようなことになるでしょうか。

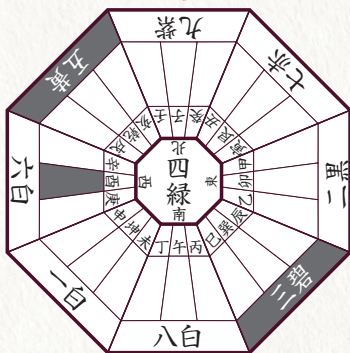
※高島曆等では、通常「南」を上しますが、この方位盤は見やすいように「北」を上にして再構成しています。

◎令和4年度生体システム 実践研究会 定期総会

12月号でもお知らせしましたが、令和4年度の定期総会は「書面議決」とさせていただきます。代議員の皆様には1月中旬頃に総会資料一式を送らせていただきますので、ご確認いただき「書面表決書」のご返信をお願いします。



2022 令和4年



2023 令和5年

今後の日程

勉強会・イベント

1月 2月 3月

27.28 3.4

お問合せ先

本部勉強会

FT-グループ

生命の泉を励起する会

北海道支部

青森支部

山形支部

宮城支部

栃木県支部

東関東千葉支部

首都圏支部

山梨支部

長野支部

新潟支部

静岡県支部

東海支部

関西支部

農業者研究会

研究員研究会

印の勉強会は参加者に規定がございます。お問い合わせください。最新の情報はお問い合わせ先へご確認ください。

編集後記

新年あけましておめでとうございます
創刊から29年目を迎える当会機関誌を
今年もよろしくお祝い申し上げます
真和編集部



真和「第一号」1998年1月～



風のとより「創刊号」1995年3月～1997年12月

真和

2023年1月号 第29巻 第01号/通巻335号

生体システム実践研究会会報

発行 生体システム実践研究会
編集 幹事長 栗田康弘
監修 大野純平・金田直子
印刷 生体エネルギー研究所
題字 株式会社ジャパンスリープ
山川宗休老丈師

「真和」編集部
〒309-0511 長野県東御市滋野甲4-1-103
TEL: 0268-041430
FAX: 0268-041702
Eメール: senery@chive.ocn.ne.jp
ウェブサイト: <https://seitaistystem.com/>



生体システム実践研究会 公式WEBサイト